やまびこ猫

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
やまびこ猫

【Ｎコード】
Ｎ４７９４Ｐ

【作者名】
源雪風

【あらすじ】
猫に返事をした。
ただそれだけなのに怖い。

「にゃーん」
帰り道、猫に声をかけられた。
嬉しくなって「にゃーん」と返事をした。
すると猫が「にゃーん」と返事をしてくれる。
楽しくなってまた「にゃーん」と言ってみる。
すると、猫は「にゃーん」と言ってくれた。

何回か「にゃーん」のやり取りをした。
帰らなきゃいけないので、私は立ち去った。
後ろから「にゃーん」と声がした。
もちろん「にゃーん」と返事をして別れた。

その日から、一人でいるとどこからか「にゃーん」と声が聞こえるようになった。
私のことを見ていてくれているのかな。
すぐに「にゃーん」で返す。
声は帰って来なかったけど、満たされた気がした。

いつしか声が聞こえてくるのが楽しみになった。
一日にそれが聞こえた回数を、日記に書いた。
その結果を折れ線グラフにして、しみじみ眺める。
明日も聞こえるだろうか。

嫌なことがあった。
「にゃーん」と返事している所を人に見られた。
よりによって仲の悪い奴にだ。
きっと「あいつの頭はおかしい」って、言いふらすだろう。

手の打ちようがないからもどかしい。
不安で仕方がない。
もう寝よう。

翌日、また声が聞こえた。
周りを見渡して誰もいないことを確認して返事をした。
でも、もう楽しくなかった。
どうして？分からない。
自分の心の変化にゾッとした。
猫の声は変わらないのに、感じ方が変わってしまった。
分からない自分が怖い。

猫の声は、まだ聞こえる。
返事したくないけど、返事をしてしまう。
そうしないと怖い。
たぶん返事をしなくても怖い。

決心した。
今日は声が聞こえても無視しよう。
いつまでも答えたくない声に答え続けるのはつらい。
自分に嘘をつき続けることになるから。
「にゃーん」
もう答えない。
「にゃーん」
やめてよ。一回無視したんだから鳴かないでよ。
「にゃーん」
どうして鳴き続けるの？
「にゃーん」
もう嫌だよ。やめてよ。
「にゃーん」

一人にさせてよ。
「にゃーん」
もう自由にさせてよ。
「にゃーん」
たまらなくなって耳を塞ぐ。
それでも猫の声は聞こえた。
止むことなくどこまでもついてきた。
逃げても逃げても・・・。

そうしているうちに、猫と出会った場所に着いた。
猫の姿は見当たらない。
しかし声はする。
探してみるが、見つからない。
「もう、やめてよ」
消えてしまいそうな声で、心から願う。
声が止む。
不意に涙が出る。
どうしてこうなってしまったんだろう。
いつ出てきたのか、足元に猫がすり寄ってきた。
全身が一瞬で冷たくなる。
猫は心配そうな眼で見つめてくる。
その眼に吸い込まれてしまいそうだ。
逃げることが出来ない。
嘘つきな私は嫌でたまらない猫をそっと、優しいふりをしてなでた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4794p/

やまびこ猫

2010年12月13日21時41分発行